

福井県に新たに記録された帰化植物（2）*

若 杉 孝 生**

New records of naturalized plants in Fukui Prefectur, Japan (2)

Takao Wakasugi

さきに福井県立博物館紀要第4号に、本県に新たに確認された帰化植物について記録しておいたが、その後さらに多数の帰化植物があきらかになったので、ここに報告することにした。記載順は学名、和名、産地、採集年月日、標本番号等である。同定に当っては一部村田源先生のお世話になった。厚く御禮申し上げる次第である。

COMPOSITAE キク科

- 1) *Lactuca scariola* L. トゲザシヤ

福井県鯖江市五郎丸町(1991.8.28 No.33812)

本県では昨年(1990)までは気づかれなかったが、本年に入って爆発的に拡がっているのが目立つ。鯖江市から武生市にかけての新国道8号線沿いには特に多い。葉は羽状に分裂して茎や葉裏中肋上に刺が多い。また果の上半部には短毛がある。欧洲原産。
(Fig. 1)

- 2) *Gnaphalium purpureum* L. タチチコグサ(ホソバノチコグサモドキ)

福井県南条町北陸自動車道南条インター(1991.6.15 No.32877)

チコグサモドキによく似るが、葉は細く幅3~5mm程、総苞の下部はチコグサモドキ程は膨れず、毛も短い。筆者は京都府丹後半島での帰化を10数年前にみているが、本県での確認はこれが初めてである。(Fig. 2)

SCROPHULARIACEAE ゴマノハグサ科

- 3) *Verbascum blattaria* L. f. *erubescens* Brügger シロバナモウズイカ

福井市開発町(1991.6.18 No.34419)

栽培野化。欧洲原産。(Fig. 3)

* 本報告は福井県立博物館紀要第4号(1991,3)<福井県に新たに記録された帰化植物>につづくものである。

** 910 福井市中央2-8-27

SOLANACEAE ナス科

- 4) *Solanum sisymbriifolium* Lam ハリナスピ

福井県福井市明里町足羽川河原(1991,8.16 No.33744)

ワルナスピに似るが、それよりも葉は深く羽状に分裂、全草につく刺はより大きく基部は偏平で、萼片や花被片にまでつく。江戸時代から栽培されており、本州中部以南にまれに帰化しているといわれているが、本県では初記録である。林幸子氏の発見による。
(Fig. 4)

GERANIACEAE フウロソウ科

- 5) *Geranium carolinianum* L. アメリカフウロ

福井県福井市足羽山山麓(1991,5.4 No.32334)

全体に微細な毛を密生、葉は5~7深裂、春から夏にかけて淡紅色の5弁花をつける。萼片とほぼ同長。昭和の初めに京都で見つけられたというが、本県への進出はつい最近のことである。原産地は北米。(Fig. 5)

LEGUMINOSAE マメ科

- 6) *Trifolium pratense* L. f. *albiflorum* Alef. セッカツメクサ

福井県敦賀市池の河内(1991,9.12 No.34046)

ムラサキツメクサの白花品。

ROSACEAE バラ科

- 7) *Potentilla supina* L. オキジムシロ

福井県高浜町内浦港(1991,5.23 No.32659)

欧洲原産で日本各地の開港地に帰化しているようである。筆者は京都の舞鶴港でも採集しているが、本県では内浦港が最初である。昨年同地を採集したときはみられなかった。
(Fig. 6)

CARYOPHYLLACEAE ナデシコ科

- 8) *Spergularia rubra* (L.) J.et C.Presl. ウスベニツメクサ

福井県南条町北陸自動車道南条インター(1991,6.15 No.32879)

ツメクサに似るが花は淡紅色で、葉の基部に白い膜質の大きな托葉があるのが特徴である。欧洲原産で、日本では関東・近畿の海岸や路傍に広がっているといわれているが本県では初記録である。(Fig. 7)

福井県に新たに記録された帰化植物（2）

- 9) *Saponaria officinalis* L. サボンソウ

福井市開発町(1991,9.4 No.33827)

欧洲原産の多年草。観賞用に栽培されるが、種子がこぼれて野化しているのをみるようになった。一名シャボンソウともいう。

IRIDACEAE アヤメ科

- 10) *Iris pseudoacorus*. L. var. ウスギイロショウブ

福井市橋屋町(1991,5.20 No.32606)

キショウブの変種とされており、花は淡いクリーム色で、本年初めて福井県でも確認した。場所はヨシの生えるやや湿ったところで、母種のキショウブも多数生育している。

COMMELINACEAE ツユクサ科

- 11) *Tradescantia fluminensis* Vell. ノハカタカラクサ(トキワツユクサ)

福井県越廻村居倉(1991,6.6 No.32812)

葉に白線の入る園芸品シロフハカタカラクサの原種と考えられている南米原産の帰化植物。茎は這って広がり無毛だが、上部の茎には一列の毛がある。葉鞘の縁や萼には長毛がある。花は白、花糸には多細胞からなる長毛がある。越前海岸での帰化をみた。
(Fig. 8)

参考文献 長田武正 日本帰化植物図鑑 1972 北隆館

—— 原色日本帰化植物図鑑 1976 保育社

大滝末男・石戸 忠 日本水生植物図鑑 1979 北隆館

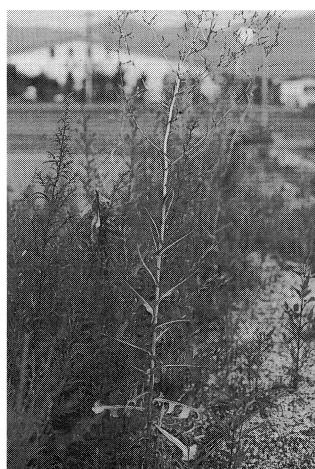


Fig. 1 *Lactuca scariola*
トゲヂシャ

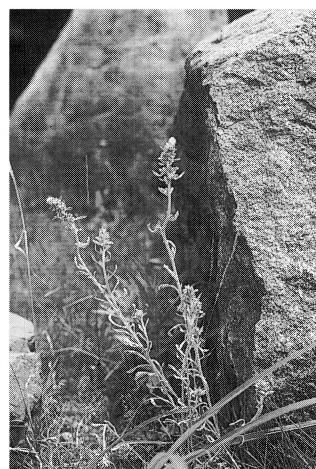


Fig. 2 *Gnaphalium purpureum*
タチチコグサ

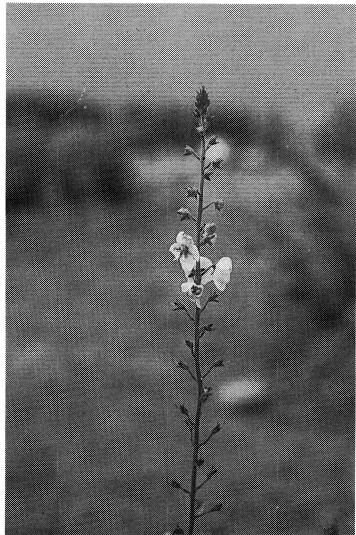


Fig. 3 *Verbascum blattaria* f. *erubescens*
シロバナモウズイカ



Fig. 6 *Potentilla supina*
オキジムシロ



Fig. 4 *Solanum sisymbriifolium*
ハリナスビ

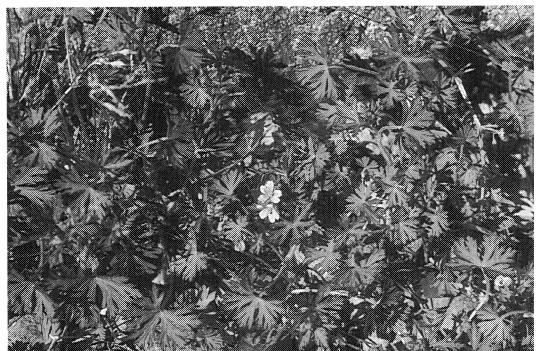


Fig. 5 *Geranium carolinianum*
アメリカフウロ



Fig. 7 *Spergularia rubra*
ウスベニツメクサ



Fig. 8 *Tradescantia fluminensis*
ノハカラタカラクサ